

トレパン(ディスポパンチ)を用いた小外科術 球状(円錐・台形)切除術

医療法人新生会 八幡病院 皮膚科 部長 前田 学 先生

規定のトレパンを用いて、きれいな円形に皮膚表面に切開線を入れ、その線に沿って11号尖刃メスで斜め方向に切開し、球状(円錐・台形)に切除する方法である。この方法の利点は皮膚の切除面積が少ないために、縫合部が最少ですみ、仕上がりが綺麗で、QOLにも有利な点がある。ただし、多少の手技を要するのが難点である。

対象疾患として、母斑細胞性母斑、皮膚線維腫、石灰化上皮腫などが挙げられる。その他、工夫次第では各種疾患に応用可能である。

方法

- 1) 腫瘍部の周辺に局所麻酔をする。
- 2) 腫瘍中央部に径4~8ミリメートルのトレパンで表面1ミリほど丸く、切り込みを入れる。

- 3) その切り込みに沿って11号メスを用い、外広がり円錐状に360度、切り込みをいれる。
- 4) 皮下脂肪組織レベルで腫瘍を一塊にして切除。
- 5) 吸収糸にて中縫い、ないしマットレス縫合
- 6) 外縫いし、終了。

利点

- 手術痕を最小に納めることができる。
- 手術野が小さいので出血が少ない。
- QOLの向上が見込める。

欠点

- 多少の手技を要する
- 取り残すリスクがあり、再燃の可能性を否定できない。

瘢痕・線維腫

後頭部の表皮嚢腫治療後の瘢痕形成を伴っているために臍抜き法を避けて本法を行った。図1aは術前の臨床像で、術中の写真(図1b)を示す。表皮側はトレパンの直径のサイズであるが、裾広がり球状(円錐・台形)と成っている点に注目いただきたい。通常のメス使用の場合に比較して切開線は3分の1で事足りる利点がある。



図1a 術前



図1b 摘出時



図1c 術後1週間

色素性母斑(混合型)

複合型の色素性母斑では突出部よりも真皮側部が裾広がりになっていることがある。十分なマージンを取って切除するのが最良であるが、切開線を極力減らそうとすると球状(円錐・台形)切除術も適応となる。図2aは41歳・男の顔面の色素性母斑例(ミーシャ型)である。球状(円錐・台形)に切除(図2b,c)したが、術後4カ月半での経過は良好である(図2d)。因みに病理組織では完全に切除出来ている。



図2a 術前

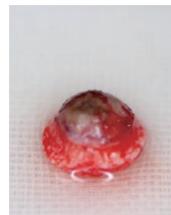


図2b 摘出標本



図2c 病理組織像



図2d 術後4ヶ月

球状(円錐・台形)切除

石灰化上皮腫

大腿部の病巣部を径6mmのトレパンにて表皮部を軽く切開線を入れて、台形に11号メスで45度のすそ広がり切開し、フック・ピンセットを用いて、摘出した(図3)。



図3a 術前



図3b 摘出標本



図3c 術後1週間

球状(円錐・台形)切除

表皮嚢腫

臍抜き法でも可能であるが、嚢腫壁を確実に切除するためにはこの球状(円錐・台形)切除術も選択肢に入れておく必要がある。図4aは31歳・女の背部の表皮嚢腫例で背部は深部まで波及し、臍抜きでは壁を完璧にとることが不可能なことがある。石灰化上皮腫と同様に切除した。組織標本でも完全に切除されていることが確認できた(図4c)。



図4a 術前
球状(円錐・台形)切除



図4b 術中

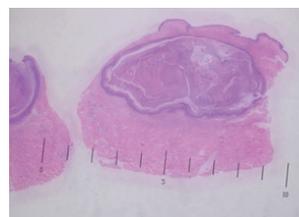


図4c 病理組織像

石灰沈着症

図5aは50歳・男の左側腹部の皮下結節例で同様の台形に切除したところ、下部に硬い結節が排出できた例である。径4mmトレパンを使用し、9x5.6x1.8mm大の腫瘍巣が全摘できた(図5b.c)。



図5a 術前



図5b 術中

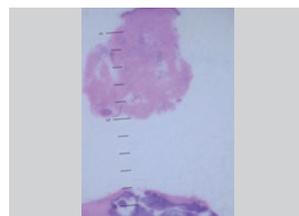


図5c 病理組織像

膠原性線維腫

61歳・女の例を紹介する。図6aは大腿部の皮下腫瘍である。径8mmのトレパンで円形に表皮部を薄く切開線を入れて同様に切除した(図6b)。境界が明瞭で容易に切除可能であった。一日ドレーンを留置した(図6c)。病理組織は良性で線維が豊富な像であった。



図6a 術前



図6b 摘出標本



図6c 術後
(ドレーン留置)

螺旋腺腫

図7aは43歳・男の2-3年来出現中の背部螺旋腺腫の初診時臨床像である。径8mmトレパンを使用し、丸く0.5ミリほど切開線を入れ、11号メスで円錐形に外広がりに切開し、真皮深層部をより大きく球状(円錐・台形)に切除し、ドレーンを留置して表皮を単純縫合した(図7b)。弱拡大像(図7c)でも完全に切り切れていることが確認できた。以後2年を経過するが再発は見られない。



図7a 術中



図7b 術後
(ドレーン留置)

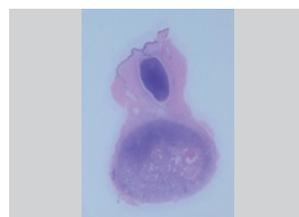


図7c 病理組織像・弱拡大

引用文献) 前田 学:皮膚臨床, 63:1569, 2021

入れ墨部の皮下腫瘍

入れ墨の模様に極力メスを入れずに病巣部を切除しようとするが第一選択となる。図8aは皮下腫瘍のシェーマであるが、入れ墨部の黒い部分より入刀して切除し、1mmシリコンドレーンを入れて終了した(図8b)。

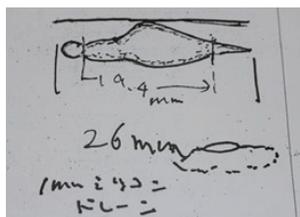


図8a 摘出標本模式図



図8b 術後

製造販売元

カイ インダストリーズ株式会社
医療器事業本部 国内営業部

〒501-3992 岐阜県関市小屋名1110
Phone (0575)28-6600 Fax (0575)28-6611
<https://www.kaimedical.jp/>

製品情報はこちらから
ご覧いただけます

